

世界の主な地震

平成 30 年（2018 年）2 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

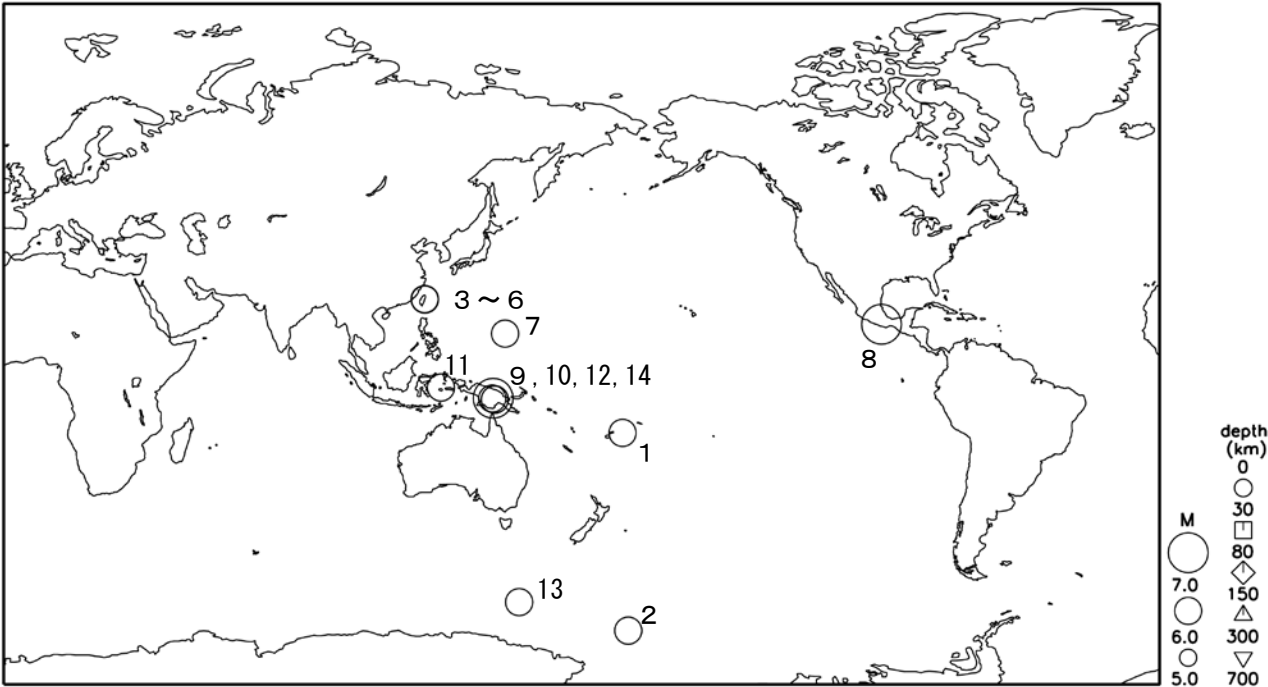


図 1 平成 30 年（2018 年）2 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

表 1 平成 30 年（2018 年）2 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北 西	遠 地
1	01日20時05分	S16° 38.7'	W177° 23.7'	10			6.0	フィジー諸島付近			
2	02日20時37分	S65° 48.7'	W175° 38.1'	10			6.0	太平洋－南極海嶺			
3	04日22時56分	N24° 7.0'	E121° 42.2'	10		6.5	(6.2)	台湾付近	死者17人など	○	
4	07日00時50分	N24° 5.3'	E121° 40.7'	10		6.7	(6.3)	台湾付近			
5	07日04時15分	N23° 59.3'	E121° 43.5'	ごく浅い		6.1	(5.5)	台湾付近			
6	08日00時21分	N24° 2.9'	E121° 45.8'	4		6.2	(5.7)	台湾付近			
7	12日08時14分	N13° 49.2'	E146° 26.3'	10			6.0	マリアナ諸島南方			
8	17日08時39分	N16° 38.8'	W097° 39.2'	25			(7.1)	メキシコ、オアハカ州	負傷者 2 人		○
9	26日02時44分	S06° 4.1'	E142° 46.1'	23			(7.4)	パプアニューギニア、ニューギニア	地震による地滑りにより死者約98人		○
10	26日17時26分	S06° 25.6'	E143° 16.2'	24			6.0	パプアニューギニア、ニューギニア			
11	26日22時34分	S02° 46.4'	E126° 41.7'	8			6.1	セラム海			
12	27日00時17分	S06° 29.7'	E143° 15.3'	14			6.2	パプアニューギニア、ニューギニア			
13	28日02時29分	S60° 14.9'	E150° 46.2'	10			6.1	マッコリー島西方			
14	28日11時45分	S06° 10.9'	E142° 29.5'	16			6.1	パプアニューギニア、ニューギニア			

・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder”
(<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2018 年 3 月 2 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj
の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。

・被害状況は、出典のないものは OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)、国内は、
総務省消防庁による (2018 年 3 月 7 日現在)。

・地震発生時刻は日本時間 [日本時間＝協定世界時＋9 時間] である。

・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (地震・火山月報 (防災編) 2005 年 5 月号参照)
を発表したことを表す。

・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

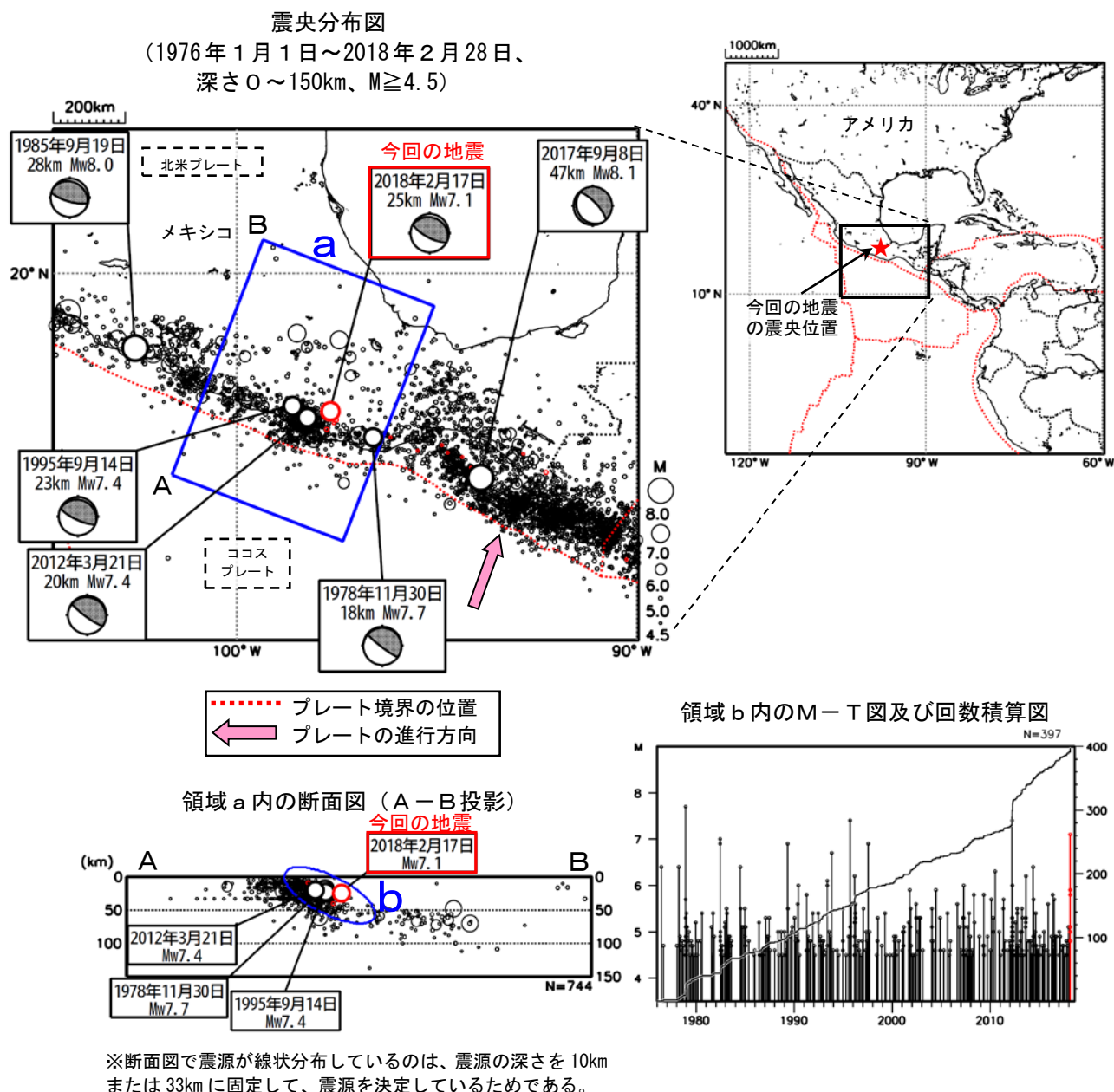
・深さに「*」を付したものは、気象庁による CMT 解のセントロイドの深さを表す。

2月17日 メキシコ、オアハカ州の地震

2018年2月17日08時39分（日本時間、以下同じ）に、メキシコ、オアハカ州の深さ25kmでMw7.1の地震が発生した。この地震は、発震機構（気象庁によるCMT解）が北北東-南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、ココスプレートと北米プレートの境界で発生した。この地震により、現地で負傷者2人等の被害が生じている。

気象庁は、この地震について同日08時55分に遠地地震に関する情報（日本への津波の有無については現在調査中）、09時18分に同情報（日本への津波の影響なし）を発表した。

1976年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は、ココスプレートが北米プレートに沈み込むことに伴い地震活動が活発な領域であり、M7を超える地震も時々発生している。2012年3月21日には、Mw7.4の地震が発生し、周辺で地震活動が活発になっている。この地震により死者2人、負傷者13人の被害が生じた。また、最近では、今回の地震から東南東方向に約500km離れた場所では、2017年9月8日にMw8.1の地震が発生し、死者98人等の被害が生じている。



※本資料中、今回の地震と2012年3月21日、2017年9月8日の地震の発震機構とMwは気象庁、2009年以前の地震の発震機構はGlobalCMTによる。その他の地震の震源要素はUSGS（米国地質調査所）による（2018年2月28日現在）。2012年3月21日の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。今回の地震の被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所）による（2018年2月28日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

*参考文献

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成

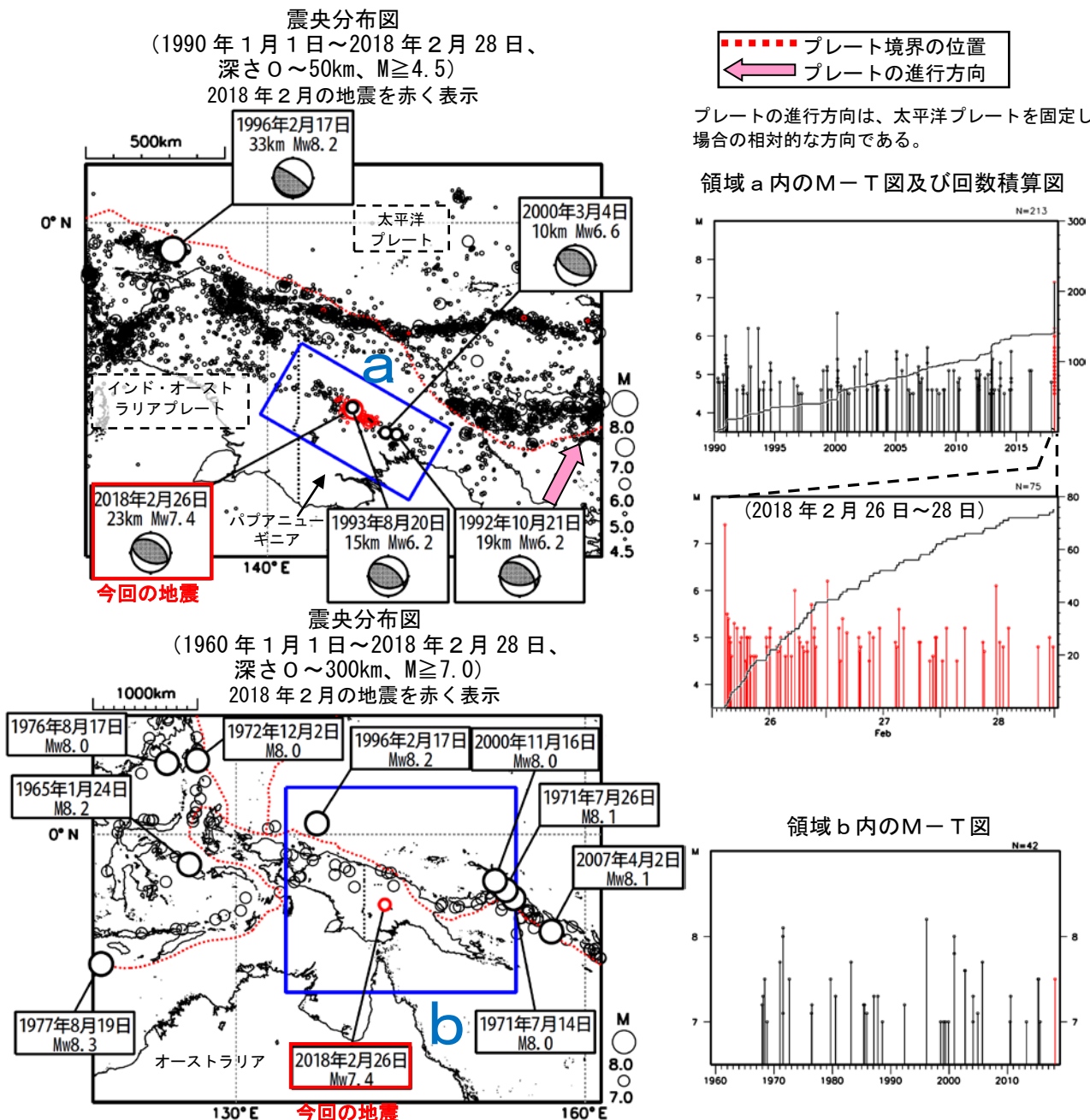
2月26日 パプアニューギニア、ニューギニアの地震

2018年2月26日02時44分（日本時間、以下同じ）に、パプアニューギニア、ニューギニアの深さ23kmでMw7.4の地震が発生した。この地震は、インド・オーストラリアプレートの地殻内で発生した。発震機構（気象庁によるCMT解）は北北東-南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

気象庁は、この地震について同日03時11分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。今回の地震の発生後、M4.5以上の地震が75回発生するなど西北西-東南東方向に活動が活発になっている（2月28日現在）。今回の地震により、周辺では地滑りが発生しており、死者約98人の被害が生じている。

1990年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M6.0以上の地震が数回発生しており、今回の地震とほぼ同じ場所で発生した1993年8月20日のMw6.2の地震では、負傷者5人の被害が生じている。

1960年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域b）では、M7を超える地震が度々発生しており、1996年2月17日に発生したMw8.2の地震では、死者166人の被害が生じている。この地震により、父島二見で104cmの津波を観測するなど日本の広い範囲でも津波を観測した。



※本資料中、今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。その他の地震の発震機構はGlobal CMTによる。上図内の震源要素は米国地質調査所（USGS）による。下図内の震源要素は国際地震センター（ISC/GEM）による。今回の地震の被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所）による（2018年3月7日現在）。過去の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成